

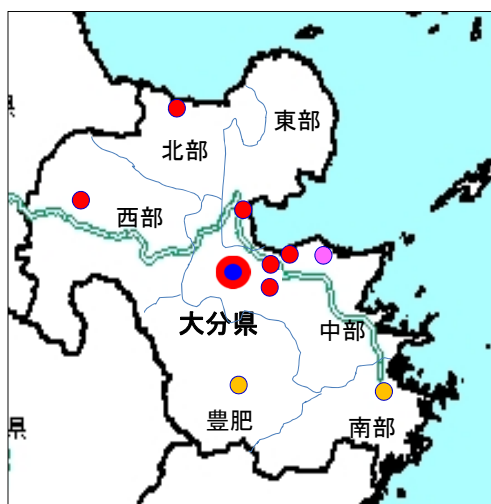
## 大分県がん相談支援センター活動報告



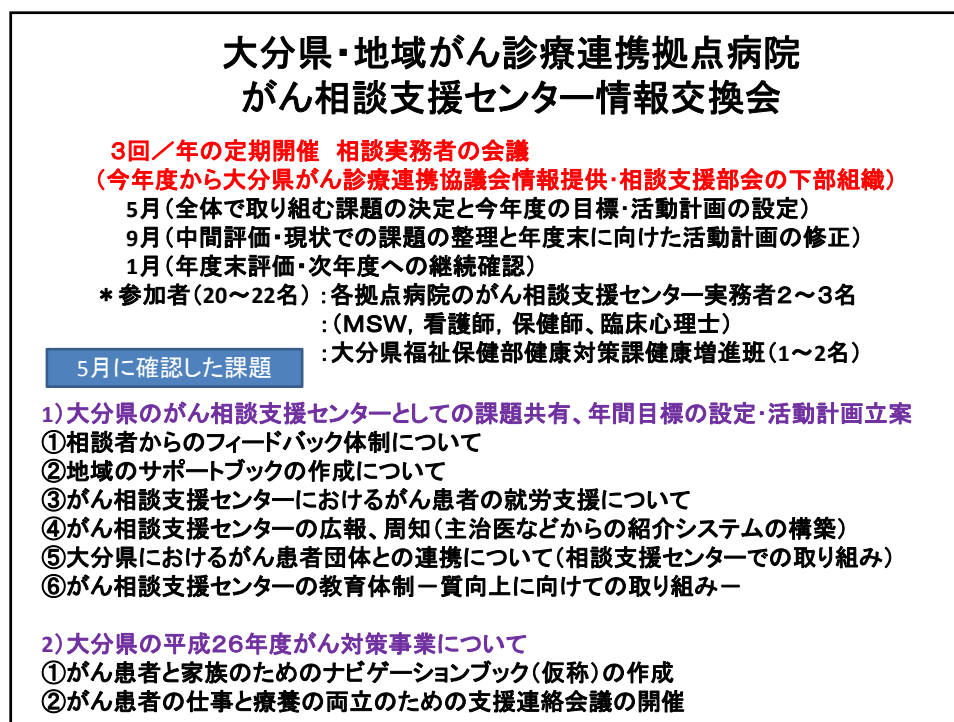
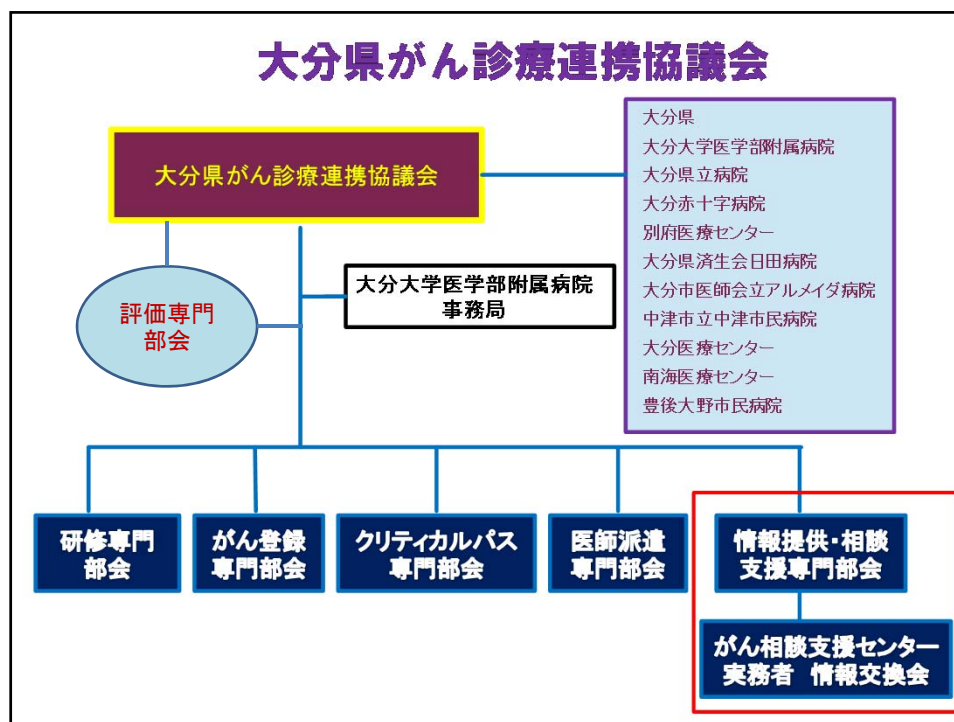
大分県実行委員  
 済生会 日田病院                      井口 桜子  
 大分大学医学部附属病院              嶋川 由紀



## 大分県内がん診療連携拠点病院



- **大分県がん診療連携拠点病院**  
 ・大分大学医学部附属病院
- **地域がん診療連携拠点病院**  
 ・大分県立病院  
 ・大分赤十字病院  
 ・別府医療センター  
 ・大分県済生会日田病院  
 ・大分市医師会立アルメイダ病院  
 ・中津市立中津市民病院
- **大分県がん診療連携協力病院**  
 ・大分医療センター
- **大分県二次医療圏における  
 中核的な病院**  
 ・南海医療センター  
 ・豊後大野市民病院



課題	目標	活動	中間評価	今後の取り組み・課題
フィードバック体制について	利用者からフィードバックを受ける体制について考え、実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自施設のフィードバック体制を考え、情報交換する</li> <li>・満足度調査の項目を検討する</li> <li>・相談対応時にできる範囲でフィードバックを受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ模索中である</li> <li>・病院の患者満足度調査の項目に入れている</li> <li>・院外相談者も多く、患者満足度調査だけではカバーできない</li> <li>・相談時に毎回「このような内容で良かったでしょうか」など聞いている</li> <li>・職種によっては相談後に聞くことはタブーになっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定期間を設けて調査してみてもどうか</li> <li>・匿名で投函できるはがきを手渡してフィードバックを受ける</li> <li>・リピート率を見ている</li> <li>・他県ではどのようにしているか情報収集し、できることを取り入れた</li> </ul>
地域のサポートブックの作成	今年度は大分県のナビゲーションブック(仮称)の作成に協力する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成までに掲載必要な情報を考える</li> <li>・大分県の事業計画と合わせて意見を集約する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンの患者さんなどに他県のサポートブックを見てもらい、記載して欲しい情報など意見をもらっている</li> <li>・相談員が希望する情報を整理している</li> <li>・今後の県の事業計画と合わせて考えていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月以降に大分県の編集会議開催予定</li> <li>・相談支援センター情報交換会メンバーの意見を反映させる</li> <li>・各相談員は、患者サロンなどで今後も患者さんから情報収集していく</li> </ul>

課題	目標	活動計画	中間評価	今後の取り組み・課題
就労支援	就労支援について定期的な情報交換・共有を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援について施設ごとに行えることを考える</li> <li>・対応した事例の情報共有を行い、対応の幅を広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各病院や相談員個別で考えるのは難しい</li> <li>・事例として就労の相談件数は増えている傾向がある(相談員の意識も変化)</li> <li>・就労アンケートを実施</li> <li>・県内の拠点病院に県単位で社労士やハローワークなどの専門家に派遣協力依頼してもらえないか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんサロンや病院のセミナーで就労をテーマにする</li> <li>・事例ごとに産業医などのかかわりをすすめていく。</li> <li>・自分たちができる範囲で、関わるために人員要求する</li> <li>・情報交換会で、就労に関する事例共有を継続する</li> <li>・大分県で開催予定の会議でニーズや方向性を考える</li> </ul>
広報、周知	拠点病院全体で相談支援センターの広報周知を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名刺カードの配布をする</li> <li>・ロゴマークを使用する</li> <li>・公開講座や市民イベントなどで外部に向けた広報をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター掲示の継続、名称変更とロゴマークの使用</li> <li>・名刺カード(独自のものを作成した施設もある)の外来・病棟配布。</li> <li>・講演会や、市民公開講座などの活用。</li> <li>・RFLや市民まつりで広報</li> <li>・マンパワー不足のため配布を控えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も公開講座などでパンフレット配布など院外広報活動はすすめていく</li> <li>・RFLで、各拠点病院相談支援センター・サロンの広報</li> <li>・主治医からのカードの配布などを実施する</li> <li>・入院案内などに入れる</li> <li>・病棟ラウンド・院内ラウンドを行う。</li> <li>・人員要求している</li> </ul>

課題	目標	活動計画	中間評価	今後の取り組み・課題
がん患者団体との連携	大分県内の患者会について情報収集する	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内患者サロンの継続支援</li> <li>RFLなどで患者会の情報収集する</li> <li>大分県の患者会情報を集約する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の患者団体を把握できていない状況。院外活動が正式な業務になっていないこともあり、どのように連携していくかなど難しい。</li> <li>院内サロンだけでなく地域型サロンの支援の必要性がある。</li> <li>患者会の検診普及啓発の取り組みを支援したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大分県で患者会・患者団体活動情報を集約してホームページや療養冊子などに掲載できないか?</li> <li>ナビゲーションブックの編集の際に提案する</li> <li>ピアサポーターの育成</li> <li>RFLの際に患者サロン・患者会の情報収集・広報したので、その情報を活用</li> </ul>
教育体制、質向上にむけての取り組み	指導者研修参加し、今後の相談員研修の方向性をきめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換会の時間を活用し、事例検討を行う</li> <li>指導者研修のメンバーを募り、研修参加する</li> <li>参加者が中心になり、研修計画を立案し実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換の時間も重要で、事例検討などは事前準備、検討時間の確保など現状のままでは困難な状況もある。負担がかからず効率的な方法で成果を挙げることにはできないか</li> <li>保健所などと協力する</li> <li>面談の技法・傾聴技法等の学習をしたいが職種によって学習ニーズが違う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者研修参加者が研修計画を立て、実施していく。</li> <li>相談員の現状や研修ニーズなどを調査し、計画に反映させる</li> <li>チームカンファレンスや、ミーティング、相談員だけでなく他チームとの情報交換や事例共有を実施する</li> <li>情報交換会でも困難事例の共有や検討を実施する</li> </ul>

## 大分県の研修計画案

研修名:相談員のスキルアップ研修

今年度指導者研修に2G参加

～みんなで支え合おう～

対象者:がん相談支援センターのがん相談実務者(相談員基礎研修の受講状況は問わない)

研修期間:年2回開催

土曜日などの約3時間程度

研修目的:

- 拠点病院・協力病院のがん相談支援センター・がん専門相談員の役割を確認する
- 相談事例の検討から相談対応の幅を広げる
- 相談員同士が職種・施設を超えて連携を取り合える関係を作る。



今後の課題

研修継続し、ステップアップして行くために指導者のスキルアップをする  
実施主体を明確にし、研修予算の確保(協議会・県の共催)  
など、課題がまだまだ...